

03 1 単位時間授業づくりの見直し

- 見直しの視点
- ☑ 学び方に注目する
 - ☑ 学習過程に着目する
 - ☑ ICTの活用に着目する

「学び方を学ぶ」を意識した指導の工夫を行う、学習過程を工夫する、ICTを効果的に活用する

「学び方を学ぶ」を意識した指導の工夫例

国語科 「学び方」の意識付けによる導入の効率化

文学的文章、説明的文章、それぞれの読み方を下学年から確実に習得させることで、「基本的な学び方」を身に付けさせることが重要です。また、その学年に必要な学習用語も、掲示物にして書き加えたり、学習用情報端末を活用して視覚的に見られるようにしたりし、児童が確認しながら学習を進められるようにすることもポイントです。そのことにより、体系的な学習が実現するとともに、課題把握に時間をかけずに主たる学習活動に円滑に入ることができます。



社会科 1 単位時間における問題解決学習の学び方の確立

社会科の学習では、「つかむ→調べる→まとめる→つなぐ」という単元の学習過程を意識して取り組むことが重要です。

1 単位時間の学習内でも

- ① 本時の問い（めあて）を確認する
 - ② 本時の問い（めあて）の解決に必要なことについて資料を基に調べる
 - ③ 本時の問い（めあて）の解決に向け②で調べたことを基に話し合い考えを深める
 - ④ 本時の問い（めあて）に対する考えを整理（まとめ）する
- という学習過程を教師は意識して取り組むことが重要です。授業の流れを統一しておくことで児童は学習の見通しをもって取り組むことができます。



理科 問題解決の過程（予想・仮説・考察）ごとの「考え方」を意識した指導

理科の学習では「問題解決の過程」を児童と繰り返し取り組んでいくことが重要です。その中で、仮説の根拠の考え方や考察の書き方等の各過程の「考え方」を意識した指導が大切です。例えば、考察場面では、教師が働かせたい考え方を意図的に示したり、考察の書き方を例示したりすることが有効です。友達の考察を参考にして加筆修正を行わせることで、児童はより妥当な考えを導き出そうとし、限られた時間の中で深い学びにつながります。

考察の書き方

STEP1 実験結果のどの部分に注目して、その結果を自分はどう考えたか。 **結論の理由**

『実験結果の…な部分を見たら、〇〇〇ということがわかる。 (〇〇〇と考えられる。)そこから△△△ということが言える。』

STEP2 自分の予想と比べてどうだったか。 **予想と比べて**

『結論は～となり、自分の予想通りであった。』
『結論は～となり、予想とは異なるものだった。自分は～と考えていたが～』

STEP3 注目した実験結果は信頼できるものか。 **信頼性**

①自分たちの班(正確に実験を行えた。数回やったら結果がほとんど同じ。)
『今回の実験は、計測通りに正確に行えたから信頼できる結果である。』
『3回実験やっても、3回ともほとんど同じ結果になったことから』



学習過程の工夫例

算数科 集団検討場面のデザイン

集団検討は、児童が協働的に互いの考えを高め合い、深め合う大切な場面です。ねらいに迫るために、学習活動に軽重をつけることが大切です。例えば、ねらいに合わせて柔軟にグループ編成を行ったり、ICT機器を活用したりすることで数学的活動の充実を図ります。また、対話をつなげていく展開にし、学習の深化を図ります。このように、児童が本時のねらいや本質に迫っていけるように集団検討場面をデザインすることが重要です。



図画工作科 児童が集中して取り組める活動時間の確保

図画工作科の学習では、児童の活動の過程自体が学びとなるため、何より活動時間を十分に確保することが重要です。そのため、授業の導入時における一斉指導は、ICT機器を活用したり内容を精選したりして端的に行うことや、児童の活動や思考を中断させる一斉指導を途中に入れないことが大切です。また、既習の用具の使い方は掲示物や学習用情報端末で示すなど、説明時間の短縮も効果的です。児童が夢中になって表現する時間を保障します。



音楽科 動画機能でよい動きの確認、振り返りの習慣化

学習計画を毎時間提示し、内容を焦点化することによって時間を生み出し、児童の主体的な活動の充実を図ることができます。例えばワークシートを学習用情報端末のクラウド上で作成し、題材を通して何を学ぶか・どのように学ぶかの見通しをもったり、次の学びにつながる振り返りをしたりして、学習意欲を高めることができるようにすることが重要です。

日本の音楽に親しもう

学習の流れ

- ① 前の学習の振り返り
- ② 日本の音階を使った音楽づくりに挑戦!
- ③ 友達の作品を見たり聴いたりする
- ④ 振り返り

道徳科 児童が集中して取り組める活動時間の確保

道徳科の学習では、導入、展開前段、展開後段、終末という学習過程が一般的ですが、その中で、展開の前段と後段の時間を同じだけとることが大切です。後段の時間を確保するためには、導入や終末で取り上げる内容を精選したり、展開前段の発問を精選したりすることが重要です。導入の時間は、事前に取ったアンケートの提示やねらいに関する簡単な発問だけを行うなどの工夫が考えられます。また、基本発問1つと、主題について考える中心発問の2つだけにすることで、展開前段の発問を精選します。

導入(1~2分)

展開前段(18分)
読誦、発問1~2つ

展開後段(18分)
自己の振り返りにつながる発問

終末(1~2分)

ICTを効果的に活用した例

体育科 動画機能でよい動きの確認、振り返りの習慣化

ネット型ゲームやゴール型ゲーム等、チームでの試合の様子を撮影し、自分たちで見返すことでより具体的に活動を振り返ることができます。また、跳び箱運動やマット運動などで自分の技を撮影し、技のポイントと照らし合わせて自己の課題を明確にすることができます。学習用情報端末での撮影、振り返りを習慣化することで、短時間で振り返りながら、運動量を確保できます。



外国語科 学習用情報端末を使って、音声データを共有

学習用情報端末の録音機能を使用し、ALT等があらかじめ用意した動画や音声を共有します。児童は音声を何度も聞いて復唱したり、自分の音声と音声データとを比較したりすることで、自らの課題を設定し学習を進めることができます。また、児童の音声を保存することで、教員は個々の発音や表現などを評価でき、個別支援の充実につなげることができます。



時間の確保

40分授業実施校の先生方は、「40分」という時間の中で児童が活動に十分に組みこめるように、これまでたくさんの工夫をしてきました。児童の活動の時間を確保するための工夫をこのページではお伝えします。研究開発学校では「研究開発学校の日」などを活用して各学校における工夫の共有を図っています。

01 時間割の工夫

学習用具等の準備、片付けの時間を考慮して、同じ学年の時間割を連続するように編成する工夫が非常に有効です。特に、体育科、音楽科、図画工作科、家庭科等の実技教科は準備・片付けの時間が必要なため、この時間を削減することで活動時間を確保することができます。

例

【校庭】体育科のハードル走

1時間目	校庭体育(5年1組)	準備のみ
2時間目	校庭体育(5年2組)	
3時間目	校庭体育(5年3組)	片付けのみ

時間割の編成上、同学年の連続が難しい場合は、年間指導計画で、同じ運動を可能な限り同時期に位置付け、準備・片付けが円滑にできるように工夫している学校が多くあります。

02 しくみの工夫

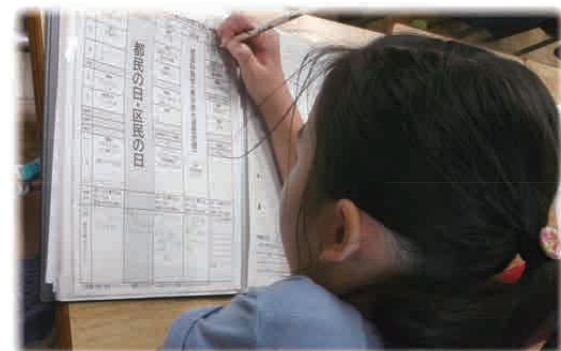
係活動や当番活動等の学級のしくみを生かし、学習用具等の準備・片付けの時間を削減し、活動する時間の確保につなげています。また、児童自身が時間を守り、見通しをもって行動できるような取組をすることで、40分の中で活動の時間を確実に確保しています。



ノートの背表紙に色テープを貼り、確認・返却が短時間でできるしくみ



5分休みに実験で使用する器具の準備を手伝っている様子



教師から配付された一週間の予定を確認しながら持ち物や教室移動について、学習の見通しをもっている様子

03 環境の整備

児童が学習で使用するものを出し入れしやすくしたり、学習用具等の準備、片付けが円滑にできるようにしたりするなどの環境整備を行うことは活動する時間の確保するうえで重要です。図工室の道具の置き場所や配置の仕方、理科室の実験器具の置き方、体育用具の設置の仕方(跳び箱の置き方、ハードルの置き方等)についても工夫が必要です。



児童自身が測定機器を準備・片付けできるように、場所を工夫したり、棚には収納されているものの写真や名称を表示したりするなど、環境を整備することで、活動の時間を十分に確保することにつながります。また、収納BOXを用意し、その単元で使用するものをBOXごとに整理し、準備・片付けの時間の削減につなげられるような工夫をしている学校もあります。

跳び箱運動を実施している時期の体育館の様子です。跳び箱の準備・片付けがしやすいような工夫をしています。



体育倉庫の写真です。年間指導計画の体育科の学習内容に応じて、使用する器具を倉庫の取り出しやすい場所に置き換えるなどして、体育倉庫の環境整備をしています。こうすることで、体育用具の準備・片付けが円滑になります。

Pick up!

児童は1週間の見通しをもって過ごしていますか？
1週間の予定表を児童に配付して見通しをもつ取組

40分授業では、とりわけ時間を守ることが非常に重要となります。専科授業等の教室移動を休み時間に行い、40分の授業時間を確保するためには、このページで紹介しているような時間割、しくみ、環境の整備の他に「児童自身が見通しをもって過ごすこと」が重要です。研究開発学校の中には、毎日連絡帳に次の日の時間割をメモさせることはせず、1週間分の予定表を児童の学習用情報端末に配付している学校があります。1週間の予定を児童と確認をして、教室移動や持ち物、学習内容の見通しをもつ取組を実践しています。

	10(月)	11(火)	12(水)	13(木)	14(金)
1	マイプラン 算数 みんなであそぶ	家庭科 文芸と式	英語 英語と式	英語 英語と式	英語 英語と式
2	算数 算数と式	家庭科 家庭科	英語 英語と式	英語 英語と式	英語 英語と式
3	算数 算数と式	家庭科 家庭科	英語 英語と式	英語 英語と式	英語 英語と式
4	算数 算数と式	家庭科 家庭科	英語 英語と式	英語 英語と式	英語 英語と式
5	算数 算数と式	家庭科 家庭科	英語 英語と式	英語 英語と式	英語 英語と式
給食					
掃除					
その他					

取組の成果(児童の声)

教室移動の効率化を考えるようになり、先生の指示よりも前に行動できるようになりました。

必要なものを前日より前に準備できて持ち物忘れが減りました。

取組の成果(教師の声)

児童が自分たちで声をかけて動くようになりました。

予定を聞いてくる児童が減って、自分たちで次に何をするか確認する習慣ができました。

さらに

「40分授業午前5時間制」について質問です！

Q 「40分授業午前5時間制」を進める上で配慮することは何ですか？

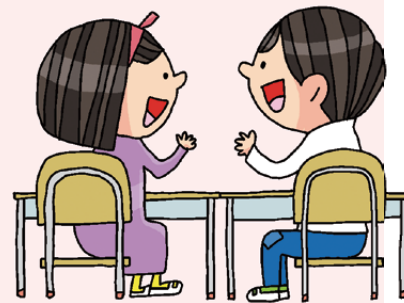
A 「40分授業午前5時間制」に対して、保護者や教員から以下のような声があり、対応をしてきました。

《保護者からの声》

給食が通常の時程よりも遅く、子供たちがお腹をすかせています。
⇒通常の時程（45分授業午前4時間制）よりも15分ほど給食が遅く設定されていることに対していただくご意見です。各学校において、「早寝・早起き・朝ごはん」を家庭にお願いしています。

子供たちの下校が早く、放課後の対応に困っています。
⇒子育て支援部とも連携して、子供たちの放課後の居場所づくりとして、「ランラン広場」という放課後に安全・安心な居場所を提供する事業を実施しています。

「40分授業午前5時間制」のよさがわかりません。
⇒各学校で、年度初めの学校説明会や学校便りで「40分授業午前5時間制」についてそのよさを伝える機会を設定しています。



《教員からの声》

40分で授業ができるか心配です。
⇒教育委員会では「研究開発校の日」（教員研修）を設定し、授業改善を図っています。また、新年度に異動者向けにガイダンスを設定している学校があります。さらに40分授業のポイントをまとめた資料を作成し、その資料を区内共通ドライブに保存することで、いつでも確認できるようにしています。

実技教科の活動時間が十分に確保できないことがあります。
⇒活動時間を確保するためにP.28、29にあるような工夫を学校独自に行っています。あわせて、P.24～27のような授業デザインの工夫もしています。

時間割の組みにくさがあります。
⇒2時間続きの時間割が組みにくく、不便さが生じることがあります。

1時間目	
2時間目	1
3時間目	
中休み	2
4時間目	
5時間目	
昼休み	3
6時間目	

学級数が多い学校では、図画工作科の2時間続きのコマを設定する場合、上記のように組み合わせることができます。間に休み時間が入ってしまいます。

1時間目	準備
2時間目	1
3時間目	
中休み	準備・片付け
4時間目	2
5時間目	
昼休み	準備・片付け
6時間目	
7時間目	3

7時間目まで設定して、2時間続きを3コマ設定している学校があります。休み時間に準備・片付けの時間を設定できます。（7時間を設定している学校では別の日に5時間授業を設定しています。）



Q 「40分授業午前5時間制」を自治体としてどのように進めましたか？

A 学校と連携して、以下のような様々な取組を進めてきました。

【「40分授業午前5時間制」研究の共通理解】

「40分授業午前5時間制」の研究の方向性を確認し、共通理解を図りながら研究を進めるため、研究運営委員会、研究推進委員会を立ち上げて研究開発学校の研究を進めてきました。

①研究運営委員会の設置

講師、研究推進委員会委員長、副委員長、顧問、目黒区教育委員会事務局で構成し、研究の方向性を検討しました。

②研究推進委員会の設置

講師、研究開発学校の校長、目黒区教育委員会事務局で構成し、研究の方向性の共通理解を図りました。
※5年間の研究の講師として、西村佐二先生（聖徳大学大学院教職研究科元教授）にご指導をいただきました。

③教務主任会・生活指導主任会による情報交換

区主催の各主任会前に、研究開発学校の各主任と情報交換の機会を設定しました。

【40分授業のポイントの理解促進】

①40分授業のポイントの資料作成

研究開発学校に所属する各教科の専門性の高い教員で組織するワーキンググループを立ち上げ、9教科分の単元指導計画や40分授業のポイントを整理しました。また各グループで授業実践を行い、講師の先生方から指導をいただきました。

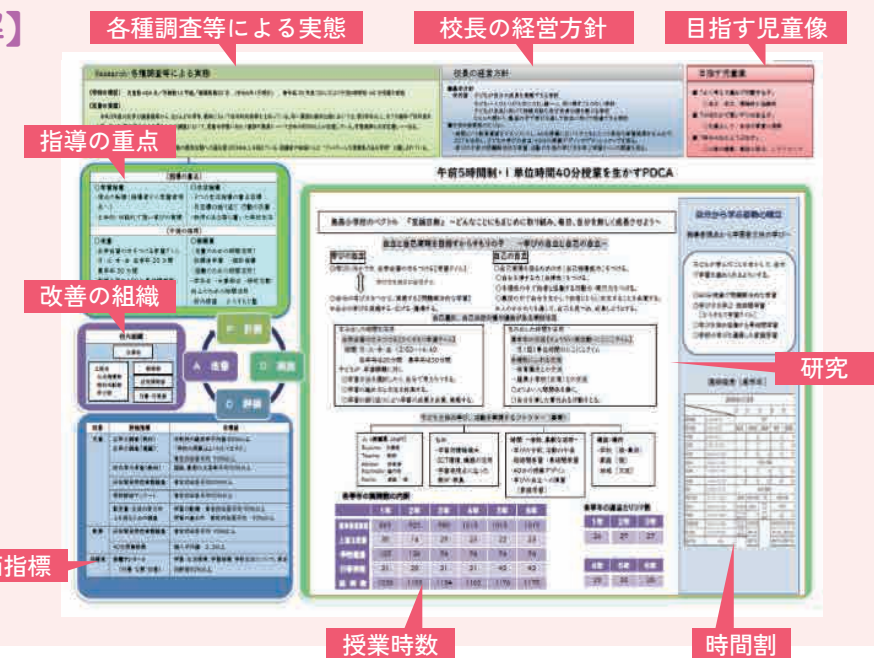
②「研究開発校の日」の設定（教員研修）

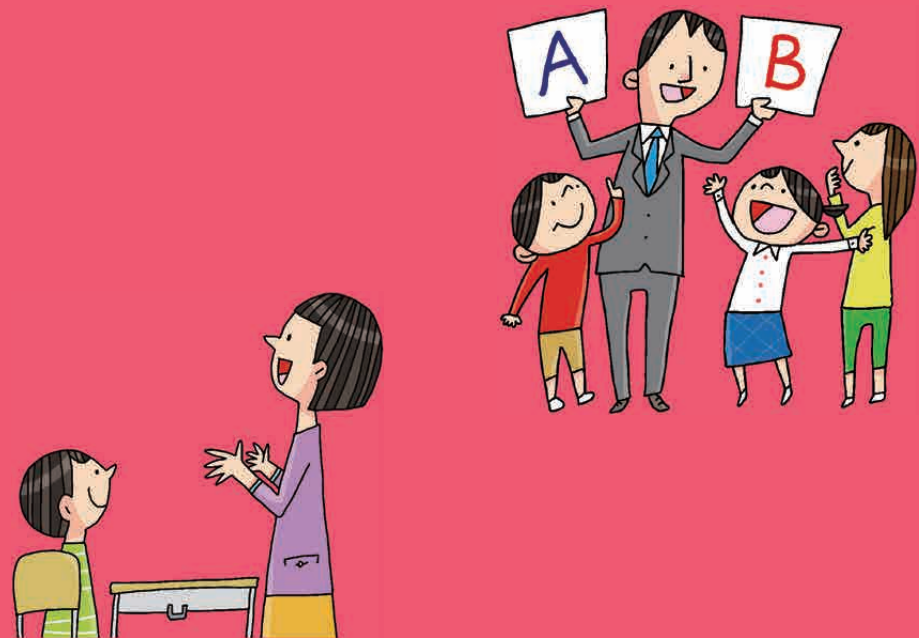
40分授業のポイントを実際の授業を参観しながら理解を深めました。

【学校の取組の相互理解】

学校グランドデザインの作成

研究開発学校では、各学校が「学校グランドデザイン」を同じフォーマットで作成しています。PDCAを意識した教育課程の編成がしやすいフォーマットになっています。学校の特色を把握しやすくなっています。





研究開発学校の 各学校の研究

- 1 特色ある教育課程
- 2 児童・教員の変容
- 3 さらなる改善に向けて



34		目黒区立下目黒小学校	
35		目黒区立中目黒小学校	
36		目黒区立油面小学校	
37		目黒区立烏森小学校	
38		目黒区立向原小学校	
39		目黒区立鷹番小学校	
40		目黒区立田道小学校	
41		目黒区立月光原小学校	
42		目黒区立駒場小学校	
43		目黒区立緑ヶ丘小学校	
44		目黒区立原町小学校	
45		目黒区立不動小学校	
46		目黒区立上目黒小学校	
47		目黒区立中根小学校	
48		目黒区立宮前小学校	



目黒区立下目黒小学校

1 特色ある教育課程

「知りたい!」「やりたい!」「伝えたい!」「学びたい!」があふれる児童の育成

～「振り返り」の重視から児童の問いや思考の進化へ～

- 生活科、総合的な学習の時間を中心としたカリキュラム・マネジメントを進め、探究的な学び方を身に付ける
- 40分授業午前5時間制で生み出した時間を活用した主体的な学びを進めるための様々な取組

マイプラン、しもめタイム プラス1タイム レベルアップ教室 代表者会議

児童の学びと生活の質の向上

放課後の余裕(早い下校時刻)

学年会、教材研究の時間、成績週間等 教職員のための時間も確保!



【時間割(給食以降)】

時間	月	火	水	木	金
12:30-13:10			給食		
13:10-13:30		昼休み	下校準備		昼休み
13:30-13:45	お昼の会	清掃・集会			清掃・たてわり
13:45-14:05	マイプラン	しもめタイム		13:30-13:50 しもめタイム	しもめタイム
14:10-14:50	6校時	6校時		13:55-14:25 委員会・クラブ	6校時
-15:35		レベルアップ教室			

代表者会議(代表委員会)

清掃～しもめタイムの時間を活用し、代表者会議を月に1回程度実施しています。放課後残ることが難しい児童も、この時間設定により学級代表や委員会委員長として積極的に参加しています。学校の合言葉を決めたり、児童からの「こんなことやりたい」を集めてどうやったらできるかを考え実行したりする等、学校生活を向上させるための活動に主体的に関わる姿勢が育ってきています。

レベルアップ教室

主に算数の基礎的・基本的な内容の定着を目指し、習熟を図る時間充てています。授業終了後、主として学習指導講師が、対象児童に少人数の指導を実施しています。

集会・たてわり班活動

清掃時間に集会やたてわり班活動を実施することもあります。たてわり班活動はしもめタイムの時間つなげて活動の時間を十分に確保し、年10回程度実施しています。

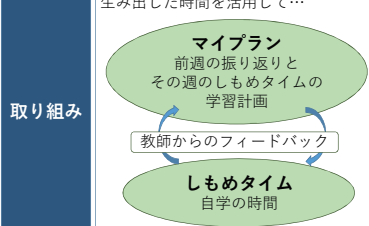
マイプラン、しもめタイム

知りたい! やりたい! 学びたい! を実現する自学の時間

児童の実態
出された課題に一生懸命に取り組むが、主体的に学習に取り組むことには課題がある。

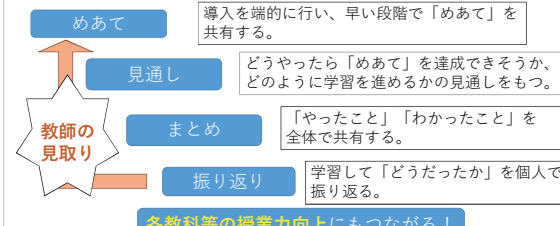
目指す児童像
・児童自身がめあて・見通しをもつ。
・自らの学びを振り返る。

生み出した時間を活用して...



生活科、総合的な学習の時間から各教科等へ

児童が生き生きと主体的に学ぶ姿を具体的にイメージしながら、教科等横断的なカリキュラム・マネジメントに努めています。また、振り返りから生まれた児童の問いをもとに、単元の中で探究サイクルを何度も回していくことで思考が深まり、主体性も高まっていくことを共通理解し、「めあて・見通し」「まとめ・振り返り」を大切に授業実践をしています。目指すべき授業、目指すべき児童像がクリアになってきました。



プラス1タイム

児童の学びや生活の充実のための時間

これまでの年間指導計画では位置付けることが難しかったけれども**児童の学びや生活の充実につながる**と思われる活動に取り組んでいます。例えば...

- 体験活動や出前授業
- 学級、学年、学校全体のきずなを深めるための活動
- 学習情報端末未活用のスキルアップ、各種アンケートや調査、教科書配付や席替え...等々

40分授業午前5時間制により生み出した時間を活用し、上記のような内容を「**プラス1タイム**」として実施することで...

- 各教科等の時間が**充実!**
- 学級、学年、学校の生活が**充実!**
- 教師の願いも**実現!**

2 児童・教員の変容

マイプラン、しもめタイム

漢字の練習、どうしたらいいかな? テストに向けて書いてみたけれど...

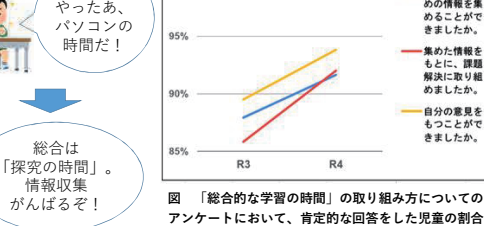


友達のノートを見て、細かいところに気を付けて書くようにしてみました!

- 児童が**自分に適した学びを自覚し、次の学びにつなげる姿**が見られるようになりました。
- 各教科の授業で生まれた疑問を、しもめタイムを使って解決しようとする姿も見られます。

生活科、総合的な学習の時間

次、総合? やったあ、パソコンの時間だ!



図「総合的な学習の時間」の取り組み方についてのアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童の割合

- 生活科では体験と気づきを繰り返し、総合的な学習の時間では探究的な学びのサイクルを回し、振り返りを積み重ねることで、**学びに向かう主体性**が児童に生まれてきました。

プラス1タイム

- 児童の気づきの広がりや深まりが見られ、**学習問題につながる問い**が出てくるように!
- プラス1タイムを、何にどのように使うと効果的かを教師がよく考えるようになり、有効に活用できるようになってきました。

第6学年 福祉体験: 実際に行ってみることを通して、「点字ブロックって本当に大切なものなんだ。他にはどんなものがあるのかな。」という疑問がわきました。

第3学年 国語科の学習の発展としてピピリオバトルを開催。クラス大会、学年大会を実施し、盛り上がりました!

3 さらに改善に向けて

- マイプラン、しもめタイム → 個別最適な学び、より深い学びへ
- その学びの価値を児童が自覚するための「振り返り」の積み重ねと、それを見取る教師の力の向上



目黒区立中目黒小学校

研究主題

「40分授業午前5時間制の特色を生かしたカリキュラム・マネジメント」
～ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～

1 特色ある教育課程

学校グラントデザインの策定
自律的な学び手を育てる学校

教育課程

- 「指導の個別化」と「学習の個性化」に関する学習をバランスよく配置
- 教科横断的な視点での授業づくり

学習活動	教師の教授活動	児童の学習活動
学習の形態	各教科	学校裁量
学習の形態	指導の個別化	学習の個性化
名称	各教科	マイプラン学習
	自学自習タイム	総合的な学習の時間
	特別活動	フリースタイルプロジェクト

時間割

● 第4学年から第6学年

マイプラン	月	火	水	木	金
朝	MP	6	11	16	21
1		7	12	17	22
2		8	13	18	23
3		9	14	19	24
4		10	15	20	25
5		26	28	29	
6	OJT				MT
7		27			

- 週当たり30コマ授業を設定
- 午前中に40分授業を5コマ
- 金曜日6校時学校裁量

単元内自由進度学習(マイプラン学習)

マイタイム
● 自学自習タイム
● フリースタイルプロジェクト

マイプラン・リフレクション

- 見通す力と振り返る力の育成
- 教員の週ごとの指導計画と連動して作成することができる



マイプラン学習(単元内自由進度学習)

- 児童に学びのコントローラーをゆだねる学習スタイル



マイタイム

- 自分に必要な学びを選択して行う個別学習



2 児童・教員の変容

児童

全国学力・学習状況調査結果(国語)

本校 東京都

算数

本校 東京都

・東京都平均より上 ・年々その差が拡大

学力の保障

- 学びに向かう意識の向上(全国学力・学習状況調査 児童質問紙)

教員

時間外在校時間の割合(4月～11月)

令和3年度 令和4年度

・時間外在校時間
・45時間以下→増
・80-100時間→減

働き方改革

3 さらに改善に向けて

- デジタル化 業務の効率化の推進
- 情報発信 社会に開かれた教育課程の推進
- 職場環境 同僚性・協働性の推進



研究副主題

主体的に生きる子供の育成

1 単位時間 40 分による午前 5 時間制を活用した学校の創造

1 特色ある教育課程

【生活時程について】

油面小学校では、令和元年度に 1 単位時間 40 分による午前 5 時間制を取り入れるにあたって生活時程の見直しを行った。生み出された午後の時間を活用して、学校裁量の時間を設定した。児童の生活を充実させるための様々な取組を行った。

令和元年度 生活時程	月	火	水	木	金
1学期	8:30-9:15	9:15-9:45	9:15-9:45	9:15-9:45	9:15-9:45
2学期	8:30-9:15	9:15-9:45	9:15-9:45	9:15-9:45	9:15-9:45
3学期	8:30-9:15	9:15-9:45	9:15-9:45	9:15-9:45	9:15-9:45

【特徴】

- ①登校から給食までの時程が毎日同じ
- ②午後の「関わりを深める時間」さくらタイム・なの花タイム・のびのびタイム・アブラカタブラ教室として活用
- ③のびのびタイムと 6 時間目をつなげることで 60 分授業も可能

【取組内容】

「学びの質」の向上

- ・社会科・生活科を中心とした授業研究
- ・学習指導研究会
- ・なの花研修会

「生活の質」の向上

- ・関わりを深める時間 さくらタイム・なの花タイム・のびのびタイム
- ・アブラカタブラ教室
- ・放課後学習教室
- ・家庭学習がんばり週間
- ・朝読書と朝の会

主体的に生きる子供の育成



【40分授業】

【ひたむきにより授業の実現のために研究を重ねよう！】

社会科は「つかみ過程を大切に授業づくり」、生活科は「思いや願いを大切に授業づくり」に焦点をあて、子供が主体的に学びながら、必要な知識や概念を獲得できる授業展開について研究した。子供が意欲的に追究する問題をもたせるための実践を積み重ねた。また、授業をつくる手順は、45 分授業と変わらないことが分かった。

【アブラカタブラ教室】

【学びたいことが同じ子、異学年集団で学ぶ楽しさを！】

年間 4～5 回行う、子供が主体的に講座の内容を選択し、学年、性別、障害等の有無に関わらず、同じことに興味がある仲間と活動する時間。人数制限も無く、教員が設定した内容から、子供たちは興味・関心がある内容を自分で自由に選択して取り組む。

3 さらなる改善に向けて

①ビルト&スラップ、ブラッシュアップ

新しい取組への挑戦と検証。今までやってきたことを整理し、価値を見いだすためのブラッシュアップ。

②子供の姿を評価規準に

子供たちの表情、発言、作品から評価。子供たちの実態から取組による成果と課題を捉え、さらに実践を続けていく。

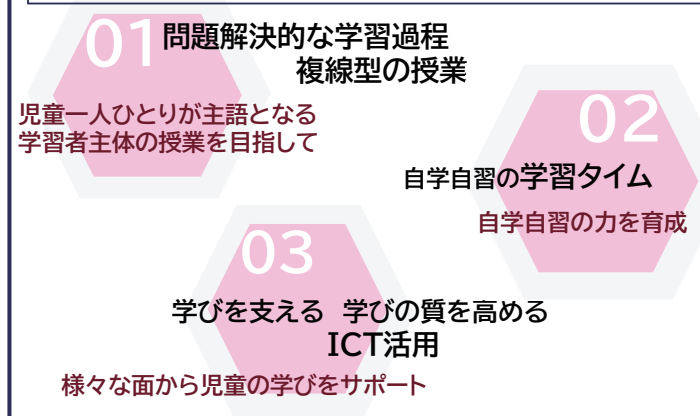
③働き方改革をさらに進める

1 単位時間 40 分授業による午前 5 時間制で生み出された時間を、授業研究や研修の時間とすることに加え、教員一人一人の時間も確保し、教材研究や学級経営のための時間にする。十分な時間を確保することで、教員がゆとりをもって働き、より子供と関わるができるようにしていきたい。



1 特色ある教育課程

研究の三本柱：主体的な学び手の育成を目指して



【時間割（給食以降）】

時間（月・水）	月	水	時間（火・木）	火	木	金
12:30-13:10	給食		12:30-13:10	給食		
13:10-13:25	昼休み	帰りの会 下校	13:10-13:25	1, 4, 6年 清掃 2, 3, 5年 昼休み		
13:30-13:40	全校 お昼の会		13:25-13:40	2, 3, 5年 清掃 1, 4, 6年 昼休み		
13:45-14:15	学習タイム		13:45-14:25	6 時間目 (1年生は月曜日の時間前学習タイム後、下校)		
	帰りの会 下校		14:25-14:55	学習タイム		

教員裁量の時間

★放課後の時間を有効活用

- ・教育の質の向上
- ・教員自身の資質・能力の向上

学習タイム

★子どもたちの学びの質の向上

自学自習の力を育成するための時間

具体的な取組①

学習タイム【子どもたちの学びの質の向上】

★自学自習の力を育成（月、火、木、金 6校時終了後実施）

- ・スケジュール学習→時間調整力の育成
- ・選択学習→自己に適した学びを選ぶ力の育成
- ・探究学習→自己の学びを進めていく力の育成



具体的な取組②

にこにこタイム【子どもたちの生活の質の向上】

★1～6年生の異学年交流の時間（月 1回・40分間の実施）

- ・6年生がリーダーとなり、遊びの計画・進行
- 主体性・リーダー性の高まり
- ・1～6年生の児童の遊びを通じた関わり合い
- 人と関わる力・自己有用感の高まり



具体的な取組③

校内研修の充実【教員の裁量時間の充実】

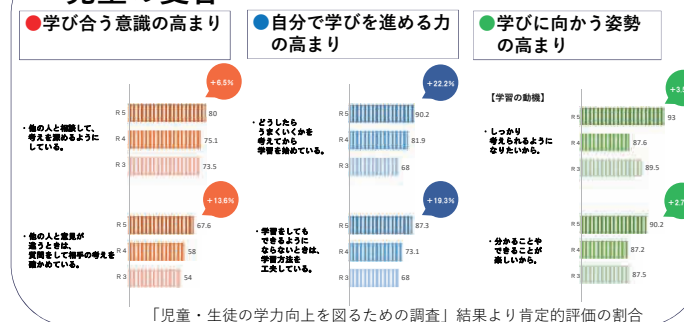
★校内研修会 教員の資質能力の向上をねらった研修

- ・研修会テーマ例
- ・学習情報端末の効果的な活用
- ・実技教科研修会（体づくり運動の実践、読書指導について）

★からすもり塾 若手教員の指導力の向上をねらった研修
①若手教員が日々の課題や深めたいことについて話し合う。
②主任・主幹教諭に講師依頼をし、研修会の場を設定する。
③学んだことを「からすもり塾通信」にまとめ、校内全体に周知する。

2 児童・教員の変容

児童の変容



「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果より肯定的評価の割合

教員の声

○40分授業でもICTの活用で子どもの活動時間を確保することができる。

○月曜の午後に余裕が生まれて、授業スキルを高める時間が確保できた。

○生み出した時間の有効な使い方をさらに検討していきたい。

3 さらなる改善に向けて

①一斉授業と複線型の授業の活用場面の検討

一斉授業と複線型の授業の特徴を整理し、各教科・領域に適した指導法として位置付けること。

②ICT活用場面の整理と教育課程への位置付け

個別最適な学びと協働的な学びの充実の観点から、さらに効果的な活用法を検証すること。ICT活用の場面とツールを整理し、指導計画等に位置付けていくこと。

③生み出した時間の活用場の検討

40分授業により生み出した時間の活用法を継続して実践、検証すること。

④研究の成果の検証と継続

5年間の研究の成果を引き続き教育活動に生かして効果を検証し、指導の改善を図ること。



目黒区立向原小学校

研究主題 「40分授業午前5時間制」を生かした創意工夫ある教育課程の開発
研究副主題 自ら学ぶ力の育成～学習スタイルの転換～

1 特色ある教育課程

予習を取り入れたカリキュラム・マネジメント

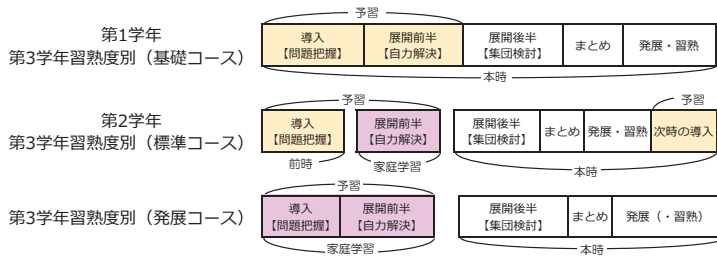
予習を取り入れたカリキュラム・マネジメントの考え方

- 予習によって授業が主体的・対話的で深い学びとなり、児童が本時の目標を達成できるようにする。
- 単に予習として児童に先取り学習を指示すればよいというわけではなく、授業では児童が予習内容を活用し、予習の価値を感じるように展開を工夫し、初期段階では予習の進め方や質についての指導をする必要がある。
- 予習は家庭学習のみで取り組むものと限定せず、児童の発達段階や習熟度によっては、前時の終末や本時の中で取り組ませることもある。
- 予習によって本時のめあてを授業の早い段階で達成できれば、発展的な課題に取り組むことも可能である。
- 探究型、問題解決的な学習展開の授業において、予習でどこまでどのように扱うかは慎重に検討する。

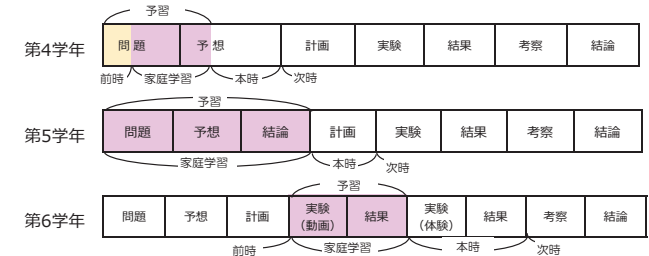
(参考文献：篠ヶ谷圭太「予習の科学」 図書文化2022)



下学年・算数科における実践例



上学年・理科における実践例



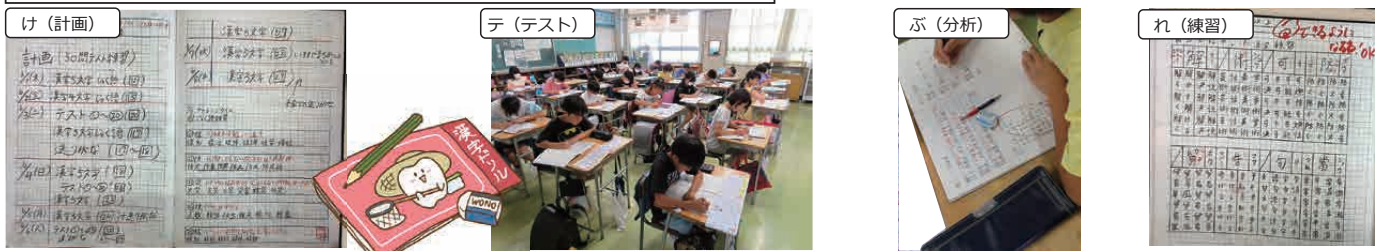
自己調整しながら進めるチャレンジタイム

自己調整学習（「けてぶれ学習法」）の学習サイクル

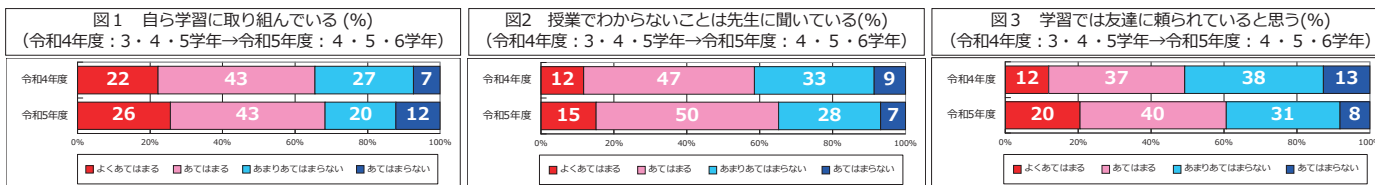
- け（計画）…目標に向けて学習計画を立てる
 - て（テスト）…自身の実力を自分で測る
 - ぶ（分析）…実力を上げるためにはどうするかを考える
 - れ（練習）…学習を積み重ねる
- (参考文献：葛原祥太『「けてぶれ」宿題革命!』 学陽書房2019)

例：漢字50問テスト

6月（児童数24人）	7月（児童数24人）
90点以上…12人	90点以上…21人
100点…2人	100点…8人
平均点…87点	平均点…94点



2 児童・教員の変容



- 質問「自ら学習に取り組んでいる」の回答（図1）については、肯定的に捉えている児童が4ポイント上昇した。本研究において児童が予習やチャレンジタイムに取り組んでいることが、自ら学ぶとする意識を高める要因の一つになっているだろうと考える。また、高学年では、「予習に取り組むことは大変だ」と感じる児童が減少した。日常的に予習に取り組むことで、児童は予習の進め方や効果を感じ、負担感が減っているのだろうと考える。
- 質問「授業でわからないことは先生に聞いている」の回答（図2）については、肯定的に捉えている児童が6ポイント上昇した。予習に取り組むことで、自分の考えを持っている状態や、自分が何がわからないかが分かっている状態で授業に参加できることから、授業への参加意識が高まったためではないかと考える。さらに、チャレンジタイムで自分の課題を分析する経験が、分かりたいという意欲の向上につながった可能性があると考えられる。
- 質問「学習では友達に頼られていると思う」の回答（図3）については、肯定的に捉えている児童が12ポイント上昇した。その中でも「よくあてはまる」の割合が大きく上昇している。質問「友達の見聞を聞いて、よく考えることができる。」「学習について、友達に教えたり、教わったりすることがある。」の回答についても5ポイントの上昇が見られた。予習によって生み出された時間によって、授業内で児童同士が主体的に対話したり、自分の考えを深めたりする時間が増えたからではないかと考える。

3 さらに改善に向けて

「令和4年度：1・2学年→令和5年度：2・3学年」については、微増はあるが大きな変化は見られなかった。まだ段階的に予習やチャレンジタイムを導入している学年であることが要因と考えられる。しかし、下学年から計画的に学びに向かう力の素地を養っていくことが上学年での意識の変容につながると考えており、今後も引き続き実践していきたい。



目黒区立鷹番小学校

1 特色ある教育課程

本校は「40分授業午前5時間制」を実施することで、時間を効果的に活用し、よりよい教師の働き方を構築しながら児童の学びと生活の質の向上を図り、自主的・実践的な態度の育成を図る特色ある教育課程を開発する。1週間の学校の時間を組み立てる上で、児童の時間の面からの具体的な取組①と教師の時間の面からの具体的な取組②の工夫を行った。

具体的な取組①

学びの基本の確立と授業時間の活用

鷹番スタンダード

<単元デザインのポイント>

- ・40分授業60分授業の活用
- ・学習過程の工夫

<授業デザインのポイント>

- ・主体的、対話的で深い学びの視点
- ・めあて、まとめの板書の工夫
- ・見通し、伝え合い、学習情報端末の活用
- ・視点からの工夫

【鷹番の1週間】

時間	月	火	水	木	金
8:10-8:20	登校				
8:20-8:25	朝の会				
1校時 8:30-9:10	鷹番タイム				
2校時 9:15-9:55					
3校時 10:00-10:40			ぼかぼかタイム※月1		
中休み 10:40-11:00	休み時間				
4校時 11:00-11:40					
5校時 11:45-12:25					鷹番タイム
給食 12:25-13:10	給食の時間				
掃除 13:10-13:25	掃除の時間		掃除の時間	休み時間	休み時間
昼休み 13:25-13:45	休み時間		6校時 (60分)	委員会 (45分)	集会活動 (60分)
昼 13:45-14:05	全校集会	ワーアップタイム・読書	13:20-14:20 マイタイム	クラブ (60分)	
6校時 14:05-14:45			14:35-15:05		
放課後 15:00-15:40	マイタイム	コンテストタイム	アセスメントタイム	会議等	スキルアップタイム フレキブルタイム
15:40-16:25	教員の休憩時間				
16:25-16:40	夕会	フレキブルタイム	フレキブルタイム	フレキブルタイム	生活指導夕会

具体的な取組②

コンテンツタイム

教材研究の時間

児童下校後、毎週月曜日、教材研究を中心に行う時間として、40分間設定している。

方法は、学年ごとに学年主任が中心となって単元計画や授業デザイン、効果的な発問等について教材研究を行う。各教科等の単元のねらいや進め方、学習内容の精選や重点化について共有し、40分授業・60分授業の活用を含め、単元や授業デザインを構築する。

アセスメントタイム

児童理解の時間

児童下校後、毎週火曜日、児童理解を中心に行う時間として、40分間設定している。

方法は、計画的に対象の学年を決め、個々の児童の学びや生活の視点から、実態把握や支援方法を共有する。

メンバーは、特別支援教育コーディネーターをはじめ、管理職、生活指導主任、養護教諭、SC、特別支援教室専門員などである。

スキルアップタイム

指導力向上の時間

児童下校後、毎週木や金曜日に組織的に行う研修の時間として、40分間設定している。教員の専門性を生かした学び合いの機会を意図的に設定し、指導力向上を目指す。

- ・校務分掌上の仕事をしながらする校務分掌OJT例
- ・運営委員会 常置委員会 各種行事委員会 など
- ・学年や学年分科会などを中心にした学年OJT例
- ・学年会 学年分科会 自己研修
- ・研修する対象者や内容を決めて行う課題OJT例
- ・若手研修会 課題研修会

具体的な取組①

鷹番タイム

めあてと振り返りの時間

○目的：自分のめあての立案とその振り返りを通して、週の予定や時間をマネジメントする経験を通して、自己の学習や生活への見通しをもつ力の育成を図る。

○内容：学習のめあてや計画的な学習計画、生活のめあてなどの立案や再確認、それを意識して生活できたかを振り返る。

ぼかぼかタイム

異学年交流の時間

○目的：自主性と実践的な態度をはぐくむ。

○内容：第6学年が中心となって計画し、たてわり班遊びや各回の振り返り、年に1度の全校遠足のめあてづくりやお互いのよさを見付けるなどの振り返りを行う。

ワーアップタイム

体力向上の時間

○目的：児童の体力向上を図る。

○対象：全学年

○時間：火曜日の20分間（昼の時間）（隔週または毎週）

○内容：運動（例 体カテストにつながる動き）

マイタイム

基礎・基本の定着に向けた自主学習の時間

○目的：児童自ら学びたい学習（個別最適な学び）を選択し、基礎・基本の定着に向けた学習に取り組む。

○対象：全学年（希望する児童）

○時間：毎週、月曜日・水曜日の放課後30分間

○内容：デジタルドリルを活用し、児童が学びたい基礎・基本的な内容を選択し、学習を進める。

2 児童・教員の変容

○児童の変容



- 伝え合う力の高まり
 - ・意欲的に伝え合ったりその内容の質の高まりが感じられたりしている。
- 学びや生活の質の高まり
 - ・自分から進んで学習に取り組む。
 - ・学習情報端末の活用の日常化。
 - ・自分の成長を見つめる。

○教員の変容

- 授業改善への取組
 - ・単元や授業構成における指導の工夫。
- 児童理解の深まり
 - ・見取り方や支援の在り方について。
- 時間的なゆとり
 - ・自分の時間や打ち合わせの時間の確保。
 - ・精神的なゆとり、負担感の減少。



3 さらに改善に向けて

児童の時間の面から

主に児童の学びと生活の質の向上を図り、自主的・実践的な態度の育成を図ることを目的に様々な活動の時間を設定し工夫を行い、実践をしてきたが、今後の改善の方向として以下の点が考えられる。

- ・児童の変容を見取る評価法の改善と共有化
- ・評価をもとにした授業改善のさらなる深化

教員の時間の面から

児童の前述の育成を図るために、教員の時間を在り方を様々に工夫してきたが、今後の改善の方向として以下のようことが考えられる。

- ・教材研究や授業改善の成果や課題の共有化
- ・児童理解の共有化と様々な書類との関連化



目黒区立駒場小学校

<研究主題>

「40分授業午前5時間制」を生かした創意工夫ある教育課程の開発

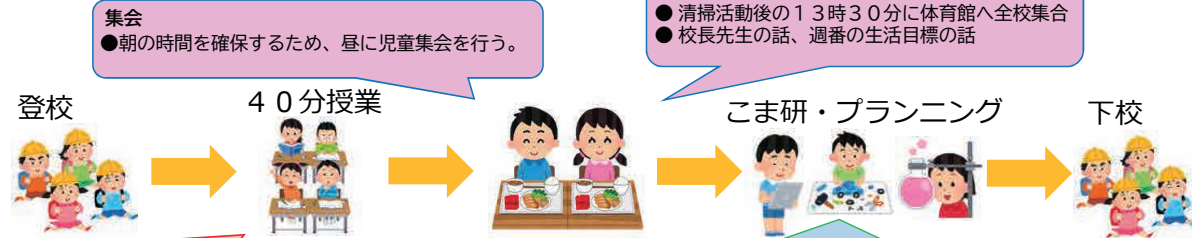
～自分の思いや考えを表現する「40分授業」と「生み出した時間」の充実～



研究パンフレット

1. 特色ある教育課程

【駒場小学校の一日】



令和5年度における1単位時間40分授業の研究「国語(読むこと)」
【研究テーマ】文学的文章を読むことを通し、主体的・対話的に自分の思いや考えを伝え、深め合う児童の育成

ポイント① 児童が解決する学習過程

ポイント② 学びを深める論理的な対話 (I think & because)

ポイント③ 学びのニーズを支える学習環境

児童の初発の感想を生かした学習計画作り

考えを形成するためのタブレット端末の効果的な活用

単元の既習事項や学習の流れが分かる掲示

児童の初発の感想を生かした学習計画作り

シンキングツールの活用や、話型の提示

発表者人にしよう

アナログとデジタルの学習内容に応じた使い分け

タブレット端末を活用した意見共有

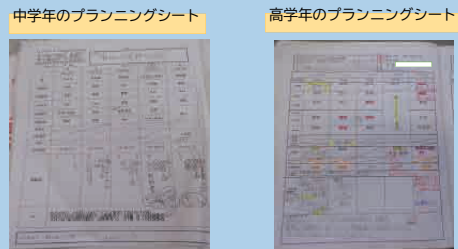
全校で統一したハンドサイン

こま研 (金曜日14時10分～14時50分)
児童が「もっと知りたい」「もっと学びたい」と思うことをテーマに、自分のペースで学習を進める40分間の時間



第3学年～第6学年が毎週金曜日の6校時に取り組んでいる。その時間は、専科と第1・2学年の担任が職員室で待機し、児童の学習内容に応えられるようにしている。

プランニング (金曜日13時50分～14時10分)
週の終わりの短時間学習(20分間)
第3学年以上の児童が今週の振り返りと来週の予定などを確認し、生活の見通しや目標をもつ時間



目黒区立緑ヶ丘小学校

1. 特色ある教育課程

子どもたちの成長のために、持続可能な学校に

令和3年度「40分授業午前5時間制」を導入

ICT機器を活用した40分授業の工夫
効果的・効率的な40分の授業展開
40分授業の質を高める工夫

生み出した時間の有効活用を再検討

- 教職員が元気⇒よい教育活動ができる
- 週時程の見直し、下校時刻の変更
- 個別指導、児童との対話の時間を確保
- 学校裁量の時間の見直し 関わりを重視
- 放課後の時間を確保⇒授業力の向上
- 会議の精選⇒教員の自分マネジメント



児童の学びと生活の質の向上

生み出した時間で、児童の学びの質を向上

- 指導の個別化(みどりの時間) (水)を除く放課後 個別指導・学び直し・対話の時間
- 指導の充実(放課後の時間) (金) 教員研修 学習用情報端末を活用した学びの工夫 教材研究・授業準備

生み出した時間で、多様な人となつがる 心を磨く

- 異学年交流・異学年との学習 ふれあい・縦割り班活動
- こ・幼・保・小・中の連携 こども園との「とも遊び」
- 大使館・友好都市の小学校との交流 自己有用感を高める機会



教職員の業務改善～自分マネジメント～

生み出した時間で、児童と向き合い、教材と向き合う時間を確保

- 週時程の見直し 時間を生み出し管理する 教員の裁量の時間
- 会議内容を精選 児童や教材と向き合う時間をさらに生み出す

ICTを活用した業務改善

- デジタルドリルの活用 紙ドリルの廃止・採点業務の軽減
- 板書やアプリの活用方法を共有 板書写真をドライブに保存

教員相互で主体的に業務改善

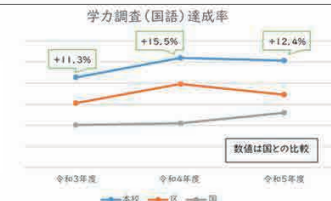
- 働き方改革アドバイザーの任命
- 業務改善アンケートの実施



2. 児童・教員の変容

【児童の変容】

目黒区学力調査(国語)3ヶ年の同一母集団達成率の経年比較(令和5年度第6学年)

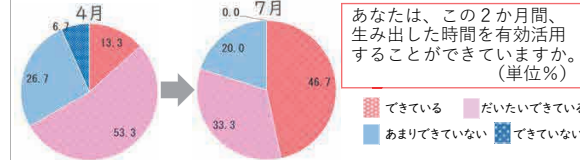


- 40分授業だと集中して取り組める。
- 放課後に授業で分からなかったところを先生に教えてもらえる。
- 一週間の計画が立てられるようになった。
- 放課後の時間に余裕ができて、先生や友達と遊ぶことができるようになった。



【教員の変容】

生み出した時間の有効活用



- 教材研究や児童と向き合う時間が増えた。
- 時間に余裕があり、学年の先生や専科の先生と話す時間が増えている。
- 優先順位を決め、計画を立て、時間を有効に活用できている。
- 見通しをもって効率よく授業準備ができている。



3. さらなる改善に向けて

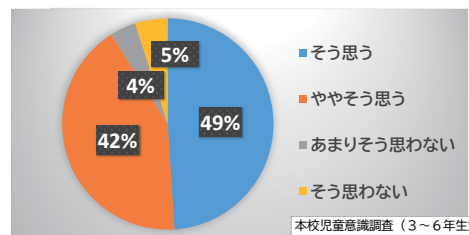
40分授業午前5時間制で、持続可能な学校に ～「持続可能な社会の創り手となる人間性豊かな児童」をはぐくむ～

- 時間という資源を活用し、「児童の学びの質の向上」と「教職員の業務改善」に向けて、生み出した時間の質的な向上をさらに検討していく。
- 学校裁量の時間の内容を見直し、児童が主体的に取り組む学習や他者との関わりを深める活動の時間を設定し、さらに人間性豊かな児童の育成に取り組む。



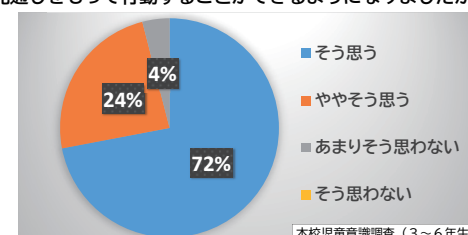
2. 児童・教員の変容

こま研の時間は、自分のペースで学習を進めることができますか。



- 「こま研」を心待ちにしている児童が増えた。
- 授業で疑問に思ったことやもっと調べてみたいことを「こま研」の時間を使って調べてみる姿が見られた。
- 児童の研究のニーズに合わせて教員も動けるよう環境整備を行った。

プランニングに取り組むことで、見通しをもって行動することができるようになりましたか。



- 見通しをもって生活できるようになった。
- 学習準備をしっかりとできるようになった。
- 家庭学習や課題の提出など計画的に実施することができるようになった。

3. さらなる改善に向けて

- ◆国語科 「40分授業のポイント」を、全教科領域で実践しよう!
- ◆こま研 テーマ設定に難色を示す児童への声掛けのあり方について考えよう!
- ◆プランニング シートのかき方について、適宜学級で共有する時間を設定してみよう!





目黒区立原町小学校

特色ある教育課程

一人一人が輝く

【校内研究】
午後20分生み出した時間を活用して、校内研究の時間を十分に確保し、「授業」「教室環境」「人的環境」のユニバーサルデザイン化に取り組みながら、誰もが学びを深められる手立てについての研究を行っている。授業のユニバーサルデザイン化の実践は、40分の授業デザインや単元デザインにも生かしている。

【校内研修】
＜OJT研修会＞
全ての教員を対象とした、指導力の向上を図るための研修会。校内の専門性の高い教員が講師となる。
＜わかばの会（若手研修会）＞
本校が初任校の教員を対象とした研修会。研究部が企画し、主に授業づくりについての研修を行っている。

【原町タイム】
午後20分生み出した時間に設定した、学校裁量の時間。「学び」のための＜パワーアップタイム＞や＜自学自習タイム＞、「生活」のための＜ライフスキルタイム＞や＜MIMタイム＞、＜なかよしっこ班活動＞など、様々な活動を行っている。

【休み時間】
毎日20分間、中休みと昼休みの時間を確保し、校庭と体育館で体を動かすことができるようにしている。児童が自ら進んで運動に親しみ、資質・能力を身に付け、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現することを目指している。

【朝の時間】
児童の登校時刻を8時からとして始業前の時間を十分に確保し、そこに＜全校朝会＞や＜児童集会＞、＜読書タイム＞などの活動を設定している。朝の時間を充実させ、学校生活が児童にとって有意義で興味深いものとなることを目指している。

【地域との連携】
家庭や地域社会と連携し、放課後に＜はらまちチャレンジ教室＞を実施している。放課後の時間を活用して、児童の生活の充実と活性化を図っている。また、＜日本漢字能力検定＞の団体受検を実施し、学習機会の提供を行っている。

各学年の時数内訳

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
標準授業時数	865	925	980	1015	1015	1015
上回る時数	0	0	0	0	0	0
学校裁量	107 1/2	68	69 1/2	79	83 1/2	80
行事時数	50 1/2	50 1/2	48 1/2	48 1/2	53 1/2	55
総時数	1023	1043 1/2	1098	1142 1/2	1152	1150

週時程表

月	火	水	木	金	
8:00	朝の時間				
8:35	1・2・3校時				
10:45	中休み				
11:05	4・5校時・給食				
13:10	昼休み				
13:30	原町タイム 14:05	6校時 (4～6年) 14:05	委員会 クラブ 14:25/45	6校時 (3～6年) 14:05	原町タイム 14:05
		7校時 (4～6年) 15:00		7校時 (3～6年) 15:00	

各学年の週当たりコマ数

	1年	2年	3年
1年	25	25	27
4年	4年	5年	6年
29	29	29	

具体的な取組

校内研究

「互いに認め合い、学びを深めることができる児童の育成」を目指して、ユニバーサルデザインの視点を取り入れながら、誰もが学びを深められる手立てについての研究を行っている。

授業のユニバーサルデザイン化の実践では、各教科の学習の流れをパターン化する、「めあて」や「まとめ」の書き方を統一するなど、全校で指導の統一化を図り、児童がどの授業やどの教師でも同様に学習することができるようにしている。また、「焦点化」「視覚化」「共有化」の視点を40分の授業デザインや単元デザインに生かしている。

さらに、ICTの活用についても検討を重ね、学習情報端末を、教員的な活用から文書的な活用とすることに重点をおいている。

原町タイム

午後20分生み出した時間に設定した、学校裁量の時間。基本は20分間だが、昼休みとあわせて、45分間の活動時間を確保する時もある。

子どもたちの「学びの質」の向上

パワーアップタイム
教員が設定した学習内容から、児童が自分に必要だと考える内容を選び、学ぶ時間。3～6年生で実施している。

自学自習タイム
児童が、自分の興味・関心のある内容を、自分で学習する時間。

休み時間の工夫

毎日20分間、中休みと昼休みの時間を確保し、校庭と体育館で体を動かすことができるようにしている。

休み時間には、多くの児童が楽しそうに体を動かす様子が見られる。また、教員も積極的に、児童と一緒に体を動かしている。

十分な時間と場所を確保することで、児童は、ボールや縄、鉄棒など、様々な運動に取り組んでいる。その成果は、毎年の体力テストの結果に表れている。

児童・教員の変容

児童の変容

目黒区学力調査において、全学年全教科の、基礎内容の正答率が80%を上回っている数を、令和3年度から令和5年度まで比較したところ、ほとんど変化はなかった。一単位時間40分授業でも、児童の学力は下がらないことがわかった。国語と算数は、正答率が80%を上回っている数が他の教科より多く、原町タイムの効果が見られると考えられる。

また、意識調査において、「学校に行くのが楽しい」と感じている児童は、全学年で90%を超えていた。児童は現在の学校生活に満足していると考えられる。

学年	国語	社会	算数	理科	英語
令和5年度	91.5	91.5	91.5	91.5	91.5
2年生	93.5	83.5	81.5	81.5	79.3
3年生	86.9	87.8	87.8	87.8	87.8
4年生	76.2	75.3	75.3	75.3	75.3
5年生	73.1	69.2	72.2	72.5	84.3
6年生	73.1	69.2	72.2	72.5	84.3

教員の変容

放課後にゆとりが生まれた結果、授業研究や教材研究に取り組む時間、学年会の時間が増え、教員の授業力や指導力の向上に繋がった。

目黒区学力調査の結果より全学年全教科の基礎内容の正答率

さらなる改善に向けて

工夫したいこと

- 放課後に「教員の自由仕事時間」を、週1回、位置付け、ゆとりの時間を見えるようにしていきたい。
- 「原町タイム」は、年間を見通して計画を立てて、組織的に動けるようにしたい。

検討したいこと

- 長期間の実践による影響や変化を今後もよく分析していきたい。

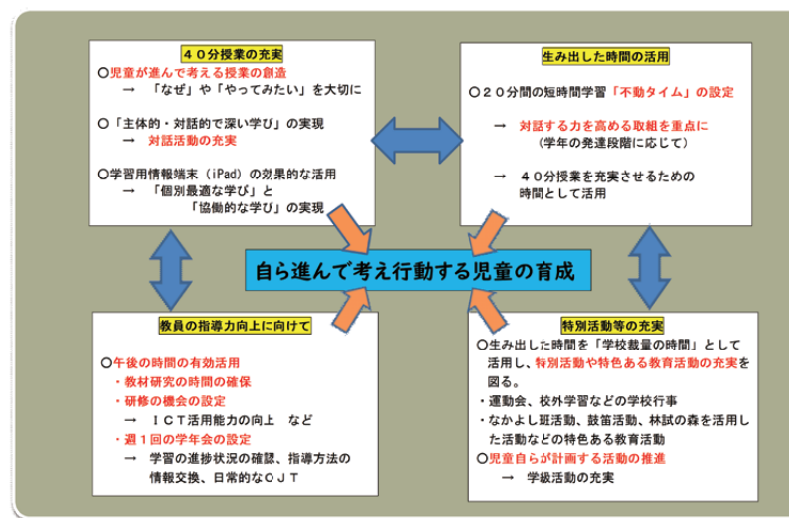


目黒区立不動小学校



1 特色ある教育課程

「自ら進んで考え行動する児童の育成」目指して



時間割（給食以降）

時間	月	火	水	木	金	短縮
給食	12:25-13:05					
清掃	13:10-13:25		○		○	
昼休み	13:25-13:40	全校お昼の会	○		○	
短時間学習	13:45-14:05	不動タイム		不動タイム	読書タイム	
6時間目	14:05-14:45	○	クラブ委員会 13:50-14:30	13:25-14:05	○	13:15-13:55
最終下校		15:10	14:30	14:20	15:10	15:10

不動タイム【週2】年間46回

- 対話の学習（前期10回、後期10回）
- 授業の充実を支える時間（年間26回）
- テスト直し、授業の振り返り、チーム分けアンケート、学級活動など

読書タイム【週1】年間19回

- 読書
- 読み聞かせ

学習活動の工夫

- 意見共有の充実**
【協働学習支援ツールの活用】
友達のを考えを一緒に見る
↓
多様な思考を自分なりに捉える
- 多様な導入**
【単元の設定】
単元計画の0時間目を設定し、育てたい力に焦点化した教材を扱う
【興味関心を高める導入】
クイズ形式などで学習意欲を高める
- 1コマ40分を支える学習活動の工夫**
- 友達と話したいな！**
【対話的な学び】
不動タイムの学びによる授業中の対話活動
- 一目でわかる振り返り・評価**
【児童】 体育の振り返りをデータで送る
【教師】 評価に生かす

不動タイム「対話の時間」

対話の基礎を支える「不動タイム」のポイント

- 話し「そうですね」等を土台に、児童同士で発言をつないでいく
- 全員参加。聞き手も反応することで参加意識を高める
- 考えを比較して学びを深めていく
- 視点を明確にして対話する。教師の例示が大切。ロイロノートを活用する

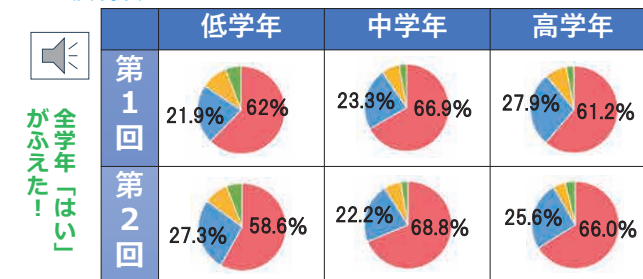
【児童の成果】

- 理由話で話せる
- 聞き上手になる
- 自ら対話を求める
- 考えを深められる
- 言語力が高まる

不動タイムは年間指導計画をつくり、全職員で取り組んでいるよ。成果と課題はHPに詳しく書いてあるから見てね！

2 児童、教員の変容

Q. 学級の友達と話し合うことで、課題を解決したり、分らなかったことが分かるようになったりしたことはありますか



- 45分授業から40分授業になり、下校時刻が早まった
- 短縮時間割で下校時刻を早めて、教師の会議や授業準備の時間を確保するよ
- ICT機器の活用で、40分授業でも考えの交流ができるようになった
- 午前5時間あるので、授業時数を確保しやすい
- 40分授業なので児童が授業に集中している
- 放課後にゆとり会議や学年打ち合わせができる

プラス

（全学年UP）

- 課題解決に向けて、自ら考え取り組んでいる
- 学級の友達と話し合う活動では、話し合う内容を理解して相手の考えを最後まで聞いている
- 学級の友達と話し合う活動では、自分の考えをはっきりさせたり、自分の考えに付け加えたり、自分の考えを変えたりすることができている

マイナス

（中学年「はい」5.4%DOWN）

○ 学級の友達と話し合う活動では、相手の考えを大切にしながら、自分の考えをしっかりと伝えていない

3 さらなる改善に向けて

【授業改善】

- 教師の成長
「児童の学び意欲を引き出す課題設定」
- 児童の成長
「活発な児童の声で授業を自らつくる」

【教育課程編成の工夫】

- 40分授業のより一層の充実を目指して、不動タイムの内容のさらなる改善を図る
- 児童の学校生活の質を高めるために、特別活動や特色ある教育活動のさらなる充実を図る



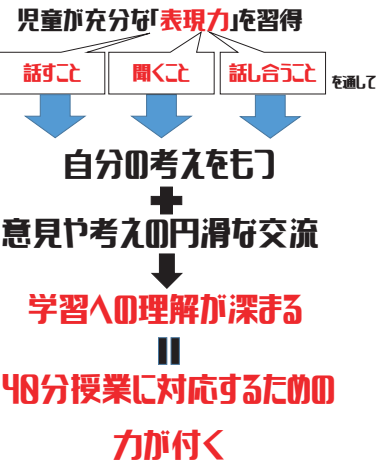
目黒区立上目黒小学校

～表現力を育む 言語活動～

1 特色ある教育課程

本校では、令和2年度に「40分授業・午前5時間制」を導入し、今年度で3年が経過した。児童は、40分の学習に慣れ、生活リズムは安定している。「40分授業・午前5時間制」の教育課程を展開するにあたり、本校では児童に「40分授業に対応するための力」を育てたいと考えた。「40分授業に対応するための力」を、国語科における「表現力(話すこと・聞くこと・話し合うこと)」と捉え、「表現力を身に付ければ児童が自分の考えをもち、他者と円滑に意見や考えを交流することができ、40分授業であっても学習への理解が深まるだろう」との仮説を立て、研究を進めてきた。

具体的な取り組みとして、「40分授業・午前5時間制」で生み出された時間を児童の表現力育成の時間やコミュニケーション能力の育成の時間に使ったり、基礎的・基本的な学力向上のための補習の時間に充てたりしている。また、教職員の会議の時間や休憩時間の確実な確保にも役立っている。



【時間割(給食以降)】

時間	月	火	水	木	金	
給食	12:30-13:10	給食				
清掃	13:10-13:25	掃りの会・簡単清掃	清掃	習熟	清掃	
昼休み	13:30-13:45	全校集会	昼休み	13:20~13:40	集会	
6校時①	13:50-14:10	委員会(5年生以上)	〇	掃りの会	上目タイム①(13:50~14:30 1年~6年)	
6校時②	14:10-14:30	クラブ(4年生以上)	〇	13:40~13:50	〇	
6校時③	14:30-14:40	13:55~14:55	〇	上目タイム②(14:30~14:50 4年~6年)	掃りの会・簡単清掃(14:30~14:40)	
掃りの会	14:50-15:00	掃りの会				

＜授業時間数と下校時刻の目安＞

学年	前年	今年度	差	前年	今年度	差
1年生	590分(13:15)	590分(13:40)	0分(25)	590分(13:40)	590分(13:40)	0分(0)
2年生	590分(13:15)	590分(13:40)	0分(25)	590分(13:40)	590分(13:40)	0分(0)
3年生	590分(13:15)	590分(13:40)	0分(25)	590分(13:40)	590分(13:40)	0分(0)
4年生	590分(13:15)	590分(13:40)	0分(25)	590分(13:40)	590分(13:40)	0分(0)
5年生	590分(13:15)	590分(13:40)	0分(25)	590分(13:40)	590分(13:40)	0分(0)
6年生	590分(13:15)	590分(13:40)	0分(25)	590分(13:40)	590分(13:40)	0分(0)

放課後の時間の有効利用

月曜日-15:00~15:35
「校内委員会等」
火曜日-15:10~15:35
「定期A部会金庫等」
水曜日-14:00~15:35
「職員会議」
木曜日-15:10~15:35
「定期B部会金庫」
金曜日-15:00~15:35
「学年会の時間」
休館時間15:35~16:20
職員夕会16:20~16:35



目黒区立中根小学校

1 特色ある教育課程

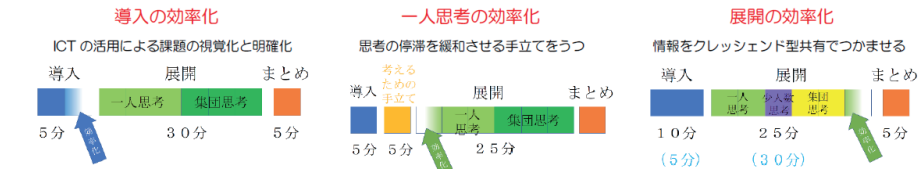
中根小学校独自カリキュラム開発 一誰もが快適に過ごせる学校

【学びの午前・活動の午後】(午前は40分授業を5時間、午後は60分授業を1時間)
40分授業のマネジメント~互いに学び合う学習集団を目指して~

40分の授業デザイン

授業の基本の流れ

個での思考・課題解決の時間の確保 → グループでの共有・議論 → 全体共有



時程の工夫

柔軟な午後の時程

(思考と感覚・感性をいかし創造する活動・基礎基本の定着)

60分授業

- ① 図工・音楽・体育・総合などの実技や調べる活動を伴う教科
 - ② 20分と40分で時間を分割することも可能
- 20分授業
- ① 20分の時間に基礎的な知識や技能を問う練習問題や復習を行う。
 - ② テスト、新出漢字の学習。

教職員の時間の確保

時程を根本から見直し、不要な職員の集客を避ける

- 最終下校時刻13:00~15:00
- 4月午後授業オールカット成績処理週間1週間午前授業
- 長期休業前後に限定した職員会議
- 会議開始時刻の繰り上げによる早期終了
- 個人面談2回→1回保護者会2回→3回



生み出した時間の活用

1 学習と心の補充時間~毎週木曜日 2~6年生

個別指導→確実な知識の習得 相談・対話→心の居場所

2 自分アップタイム ~いきいきタイム・わくわくタイムに分かれ、それぞれ月1回の朝会・年2回の集会用に実施~

いきいきタイム
基礎体力づくりと体幹(感覚・呼吸法・姿勢)を身につける時間

【ねらい】日々の生活に必要な基本となる身体の動かし方や使い方を学び、基礎感覚を養う。
・姿勢づくりの基礎を知り実践することで、身体的・精神的な向上を図る。
・運動自体を学習する能力と、潜在的な能力としての学習力を引き出し、動きの学習能力を高める。

【主な活動内容】 気持ちを整える運動 / 姿勢(座位・立位) リズム体操 / 体を整える運動 / 動きの持続 生活習慣に関連した指導 / コーディネーショントレーニング

気持ちを整える運動、姿勢(座位・立位)、リズム体操

わくわくタイム
基礎体力づくりと体幹(感覚・呼吸法・姿勢)を身につける時間

【ねらい】個々の視覚機能(眼球運動機能)の向上を図ることで、学習の素地を高める。
・個々の認知機能(記憶・知覚・注意・言語理解・判断・推論)の強化を図り、互いに認め合う学習集団の素地を育む。

【主な活動内容】 ビジョントレーニング(目トレ) 目の追従性・跳躍性を高める学習 / 目と身体の協応性を高める学習
コグニショントレーニング(コグトレ) 記憶力・言語理解力向上の学習 / 推論・判断能力向上の学習

目の話トレ・矢印体操・じゃんけん体操、パラパラ文学

2 児童・教員の変容及び効果

児童の学力向上

＜令和2年度~5年度 目黒区学力調査 達成率の経年変化＞
・4年生は区平均よりも上回り維持している。
・5年生は令和2年度から上昇し、区平均を大きく上回る。
・6年生は令和2年度より緩やかに上昇傾向を示している。

＜2023年全国学力調査＞

- 【国語】
・「話す・聞く」「読む」「言語」「情報」の項目で全国平均を上回り、総合点も全国平均を上回る。
- 【算数】
・全ての項目で全国平均を上回り、総合点も全国平均を上回る。

児童の学習・運動・健康の素地づくりの効果

(令和4年度より実施)
・児童の学習における困り感の原因が、学習視力(中根小独自用語)や認知の問題であることが浮上した。それにより、支援の方法を原因に合わせて変えることが可能となった。また、集団の中で見過ごされそうな、学習視力を起因とした困り感を持つ児童をピックアップする可能性を高めている。

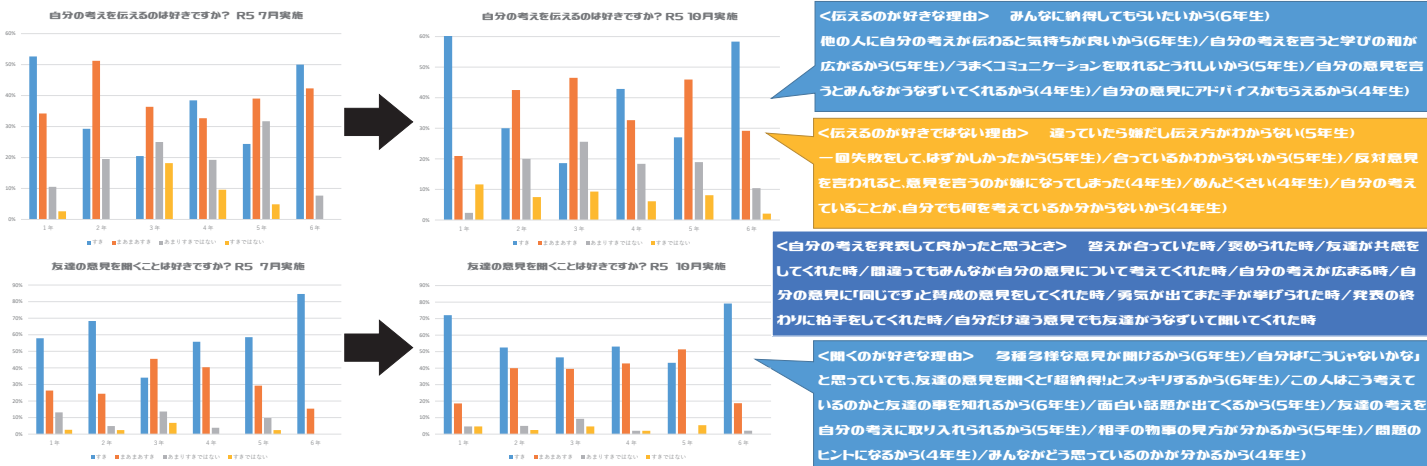
教員が働き方を変える

・時間的な余裕は心の余裕をつくり、それが教員自身の計画性・自主性となり、相乗効果として働き方における正のスパイラルとなっている。それ故、超過勤務時間が非常に少ない。都及び区の教員の心的ケアアンケートでも、ウェルビーイング傾向の数値が平均を上回る。また、外部や学校評議員より正の変容の評価を受けている。

3 さらなる改善に向けて

・教職員が活き活きしていないと児童も活き活きとこないという心理的社会的行動ロジックを基本思考とし、また「不易と流行」を基盤とする中で、何の要素が「心の安定」「快適に過ごせる学校」につながっていくのか、より一層の精査・解明・改善を即時的継続的に行っていく。

2 児童の変容



3 さらなる改善に向けて

4 質の高い教育をみんなに

項目	内容	実施状況
1	授業の質の向上	40分授業の実施
2	学習環境の整備	ICTの活用
3	教職員の働き方改革	時程の見直し
4	児童の健康増進	いきいきタイム・わくわくタイム
5	地域連携の推進	PTA・PTの活用

- 視点を絞って話し合い活動を推進→40分授業に対応
 - 教科横断的な視点で学習を展開
 - 系統的な指導「発達段階に応じて、設定した指導」が妥当か確認
 - 表現力を向上させる時間の再点検
- 「上目タイム」や「話まるゼミナール」の効果の確認とさらなる充実化

1 特色ある教育課程

40分授業午前5時間制と研究のあゆみ

■令和元年7月：令和2年度より40分授業午前5時間制の導入を決定。
 ■令和2年4月：40分授業午前5時間制を開始。文部科学省研究開発学校の指定を受ける。
 ▽40分授業の完成は、午後の時間を生み出すために必須であり、宮前小学校では、40分授業の完成と生み出した時間で「学びの質・生活の質」の向上を両輪と捉えて研究に取り組んだ。

■令和3年4月：主体的に学ぶ児童の育成～プログラミング的思考を通じて～をテーマに、アルゴリズムの手法を取り入れ40分授業を完成させる研究を開始。

■令和4年度：効率から創造へ - 40分で資質・能力は育つ - をテーマに、理科・算数・図画工作科において、比較・関係付ける力を用いることで40分授業を完成させる研究を推進。

■令和5年度：効率から創造へ - 40分で資質・能力は育つ - を継続し、理科に特化した理科での問題解決の授業づくりを他の教科へ転用できることを実証する研究を開始。

「45分を40分にする強み」

- 午前中は子供たちの集中力が高い。
- 40分間という長さは、テンポよく学習を進めるには適切な長さ。
- 時間割を工夫することで午後に連続した6・7時間目を設定可能。
- 週に29時間分の学習時間を確保。
- 水曜日は全ての学年が午前授業。

令和5年度の時間割

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	8:30-13:15	40										
2	8:30-13:15	40										
3	8:30-13:15	40										
4	8:30-13:15	40										
5	8:30-13:15	40										
6	8:30-13:15	40										
7	8:30-13:15	40										
8	8:30-13:15	40										
9	8:30-13:15	40										
10	8:30-13:15	40										
11	8:30-13:15	40										
12	8:30-13:15	40										

- 生み出した時間：「学校裁量の時間＝オープンタイム」と呼んで活用。
- 令和4・5年度では、前年度の成果と課題を踏まえて「資質・能力」を育むための手立てとして「比較・関係付ける力」を働かせ「学びの質」「生活の質」の向上を目指して「探究活動」の実践研究に取り組む。児童一人一人が自ら生み出した「新たな問題」を比較・関係付ける力を通して解決に結び付ける探究活動（令和5年度より「たんQ」に名称を変更）を実践。

2 児童・教員の変容

【「たんQ」の究極の姿：一人で1問題解決の実際】

令和4年度の6年生が、理科の振り返りから生み出した問題を自ら解決を行った。
 【深めよう】：新しい価値を創造しようとする活動。

【深めよう】
 一人で問題を設定して、解決にむかう力が付いた。
 ・自分で実験に使う道具を先に申し出る力。
 ・結果を自分でまとめる力。
 身に付けた力
 ・もっと早くから問題を決める力。
 もっと追究したいこと
 ・テコの原理を獅子おとし以外に使っている有名なものはないか、また、もしあるのならどのようにテコの原理を使っているのを研究したい。

【深めよう】
 今回の実験はいつもより先を見通して実験計画ができたのがよかった。しかし、問題を確かめるための実験がもう少し必要だと思った。例えば今回の実験ではどんな時にテコが働くのかを確かめる実験のみだったので、逆にどのような時にテコは働かないのかという実験も行った方が、より問題に対する確実な結果が出せたと思う。また、1回目の実験中に思い付いたアイデアが次の日に1回実験を行ったので、最初から満足いくような実験ができるように、見通しをもって実験計画をすることはこれからも意識していきたい。小学校での改善点は中学でも忘れずに次の実験に生かしていきたい。

【深めよう】
 私はこの一人で1問題解決をして、自分で問題のテーマを設定し、実験する力が身に付きました。私は6年生のはじめは、自分で問題を解決することに興味をもたずいたが、理科が好きになって日常にあるたくさん問題を解きたいと思うようになりました。理科にはとても興味があるので、中学に入ったらたくさん実験をして、理科の知識を増やしたいです。また、中学では理科を得意科目にしたいです。

【裏庭活動の様子】



■20・40・60・80⇒1単位時間は40分間ですが、時間の組合せは活動の目標や内容に応じて組合せが自由にデザイン可能。

「オープンマインド（目指す児童像）」「オープンタイム（学校裁量の時間）」の呼称の由来

■オープンスペースをもった学校でのオープン教育を目指し「恵まれた施設に負けない教育の営み」という目標と「新しい器に新しい教育」というロマンを抱いて教育活動を推進。「本当に子ども達に計画性や主体性を身に付けさせてやりたいのなら、子どもにも『選案』があってよいはず。」の考えの下【週間プログラム学習】を実践。この目標とロマンを継承して「オープンマインド」「オープンタイム」と設定。

【令和5年度の取組】

たんQの究極の姿

たんQの究極の姿

たんQの究極の姿

【オープンマインドの達成状況】：児童質問紙より

項目	令和4年度	令和5年度
探究活動の楽しさ	82.0	85.1
探究活動の意義	79.7	82.8
探究活動の成果	82.0	85.6
探究活動の楽しさ	80.9	84.2
探究活動の意義	80.4	83.4
探究活動の成果	82.0	85.6
探究活動の楽しさ	79.7	82.8
探究活動の意義	79.7	82.8
探究活動の成果	77.8	80.9

「たんQ」について

- 「たんQ」を通じて、児童の「オーナーシップ（自分事として捉えて責任を果たさせ、自分や周りの友達へどのように役立ってきたか振り返る活動）」「失敗」「チャレンジ」を後押しすることができ、ここで身に付けた力が児童が活躍する2050年に生きてくると確信。「たんQ」の究極の姿は「一人で1問題解決」。
- 最終的には児童が解決方法を一方的に与えられるのではなく「児童と教師と一緒に考え、創り上げる（co-create）」の実現を目指す。これらの事から「自己調整力」「自立した学習者」の育成を目指す。

3 さらに改善に向けて

- 「家庭学習における、計画・実施・振り返りの【AARサイクル】」を通じた、自立した学習者の育成に向けた実践を深める。
- この取組の成果と課題
 ○成長を実感することができる。その結果自信をもつことができる。さらに伸ばしたり、苦手を克服したりするなど、能動的な態度を育てることにつながる。
 ▼個によっての差が大きいため、自分で課題発見⇒解決のサイクルを回せるようになるまで時間がかかる。

「学びの質」の向上を目指して
 ■「単元デザイン」「授業デザイン」の工夫を通じて目指す児童像へ迫った。
 ■令和5年度は理科を通じての研究とした。1・2年生については生活科とせず「自然事象」を対象として研究を行ってきた。

「裏庭」
 ■「宮前小学校の教育環境の最大の強みである。
 ■「生活の質の向上」を図る。自ら関わる。相談したり協働したりできる。
 ■「主体的な態度」「自治的」な活動の素地を育める。
 ■「Yes,And」の気持ち（心理的安全性）をもって互いに学べる。

■水曜日の午後は教員が自由に使える時間として確保できている。令和4年度7月時点で63.3ポイント、2月時点で68.7ポイント。さらなる校務の効率化を進め、活用率70ポイント以上を目指す。



MEGURO